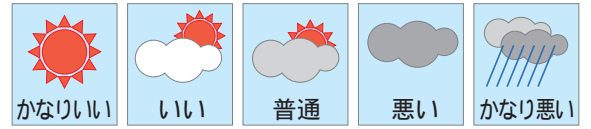


# 業種別下請関連企業の 現況と見通し



(対象期間 平成14年7月～9月)

業種加工内容	ポイント	現況	見通し
<b>【繊維・繊維製品】</b> 	<p>今期「売上が増加した」が前期の11%から17%に、「利益が増加した」が7%から13%に増加している。「新商品の発売でフル操業」という企業もあった。</p> <p>しかし、「受注単価が値上りした」は平成13年度第4四半期から3期連続で0となっており、海外製品との競合による単価の低下は今後も避けられないものと見られる。</p>	 <p>悪い</p>	 <p>かなり悪い</p>
<b>【合成樹脂製品】</b> 	<p>「売上が増加した」が22%から38%に、「利益が増加した」が14%から29%に大きく増加し、全業種中最高である。特に、自動車及び光学機器の部品が好調である。ただし、「業界全体が上向き」は18%から5%に落ち込んでおり、今後についての期待感は見られない。実際に、「現在は好調であるが一過性のもの」という冷めた意見もある。</p>	 <p>いい</p>	 <p>普通</p>
<b>【鑄造】</b> 	<p>「操業度100%以下」の企業が85%を占めており、生産活動が全く振るわない様子がかがえる。さらに、「売上が減少した」及び「利益が減少した」がそれぞれ64%から69%に、71%から77%に増えている。9月に自動車部品メーカーが県内に立地したが、これを好機とするためには、いっそうのコスト対応力が求められる。</p>	 <p>かなり悪い</p>	 <p>かなり悪い</p>
<b>【鉄骨・製缶】</b> 	<p>「業界全体が下向き」が74%で全業種中最高となっており、将来に対する危機感が強い。「受注単価が値上りした」は現在の調査方式となった平成13年度第1四半期から0のままとなっており、単価下落の傾向はもはや構造的なものと言える。</p>	 <p>かなり悪い</p>	 <p>かなり悪い</p>
<b>【機械加工】</b> 	<p>「売上が減少した」が62%から76%に増加し、全業種中最高となった。さらに、「利益が増加した」が16%から11%に減少しているほか、前期は少数(8%)ながらあった「業界全体が上向き」も0になるなど、前期に見られた回復傾向が急速にしばみつつある。</p>	 <p>普通</p>	 <p>悪い</p>
<b>【プレス・金型】</b> 	<p>「売上が増加した」は5% 21% 23%と今期はゆるやかになったが、2期連続で増加している。「利益が増加した」も5%から14%に増加しており、わずかながら改善の傾向が見られる。しかし、「受注単価が値上りした」は他の業種と同様0であり、「忙しい割には利益が上がらない(ある回答企業)」状況となっている。</p>	 <p>普通</p>	 <p>普通</p>
<b>【金属製品】</b> 	<p>「操業度100%超(「100%超120%未満」及び「120%以上」の合算)の51%は全業種中最高である。特に、表面処理の企業に好調なところが多かった。しかし、「(今期は)半導体製造装置が好調」とした企業がある一方、「半導体製造装置は今後落ち込むだろう」という意見もあり、今後については不安を残している。</p>	 <p>普通</p>	 <p>普通</p>
<b>【組立】</b> 	<p>「売上が増加した」が6% 13% 25%と2期連続で増加しているほか、「利益が増加した」も8%から25%に増加している。しかし、今後については発注企業の内製化や海外移管による受注減が確実となっている企業も少なからずあり、見通しは必ずしも明るいものではない。</p>	 <p>悪い</p>	 <p>かなり悪い</p>

天気図は、「下請中小企業経営動向調査 結果並びに下請取引あっせん業務の窓口から見た生産状況、収益性を総合的にとらえたものです。」  
『精密板金』『表面処理』については『金属製品』に取りまとめています。

お問合わせ先 取引支援課 TEL 019-621-5385 FAX 019-624-5480  
URL <http://www.joho-iwate.or.jp/torihiki/> E-mail [sitauke@joho-iwate.or.jp](mailto:sitauke@joho-iwate.or.jp)